

みやけの風

第 74 号

平成14年(2002年)4月6日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

「ふれあい集会実行委員会、いい話がたくさん出来たな」「今回は、子供たちのための企画がめじろ押しだな」「うん。やっぱりこれからの三宅を担う子供や若い仲間集会にも来てもらいたいもの」高齢者などの方々のための車の手配も、着々と進んでいます。

みんなの声

(1) 元気をありがとうございました

港区に避難している三宅島島民の希望者が、港区社会福祉協議と港区そして港区のライオンズクラブ等のご厚意により、3月23・24日の1泊2日で箱根仙石原へ行って来ました。心配していた天気も出発する時にはすっかり晴れわたって、旅行に絶好の日和となりました。朝9時にバス2台を貸し切って、港区スポーツセンター前を出発しました。高齢者、身障者(車椅子2台)等、参加者は様々で主催者の気苦労は格別大変だったことと思います。都会のあくせくとした環境から一気に抜け出て、途中の杉並木を窓から眺めながら三宅を思い、川を見て三宅を思い出し、蘭の花を見て三宅のエヒネ蘭を思い出し、久しぶりに思いに耽る時間を持つてました。

宿泊先の港区立校外施設「箱根ニコニコ高原学園」の周りもとても静かで、緑の木々に囲まれたすてきな施設でした。心のこもったもてなし料理には、凄く感激しました。気取った料理ではないのですが、とても暖かみがあってなぜか優しさを感じる食事でした。

温泉も気持ちが良い心身共にすっかり解きほぐされてリラックスそのものでした。今回、私も主人と参加させていただきました。半身不随の主人はいつも旅をしても、温泉にゆっくりつかることなく、部屋の中の小さい風呂で入浴するだけなのですが、今回は関係者の計らいで、大きい湯船にゆったり入ることが出来ました。「俺、病気になってからはじめてだなー、こんなに気

持ちの良い温泉には入れたのは・・・」と本人も嬉しく喜んでおりました。

旅行から帰ると本来は疲れるはずなのに、翌日はとてもさわやかな目覚めでした。

本当に元気をありがとうございました。休日を返上し手同行して下さったボランティアの方、区役所の方、そして港区社会福祉協議会の方々から心から感謝申し上げます。目前で見た富士山のあの雄大な雪景色をいつか遠く三宅島から眺められる日が訪れることを祈りつつ東京へ戻ってきました。

(港区港南 早川 マス子)

(2) 三宅島児童・生徒支援センターの活動の終了について

三宅島の児童・生徒360人が秋川高校で寮生活を開始した直後の平成12年9月13日より活動を開始し、平成13年1月に三宅島社会福祉協議会が活動を引き継いで以降、全国の皆様に長らくご支援・ご協力を賜りました「三宅島児童・生徒支援センター」は、平成14年3月末をもって活動を終了いたします。

平成13年度は、北辰館を拠点として「児童館」としての活動や、全国から寄せられる支援物品を未就学児を含めたすべての子供達へ届ける活動、ご提案いただく支援イベントや企画の調整や対象者へのお知らせなどを行って参りました。しかしながら、①対象者である小学生が、この4月をもって秋川校舎に在籍しなくなること、②基本的に就学児童・生徒に対するイベント等の受け入れ窓口は、三宅村教育委員会および村立小中学校・三宅高校で対応する体

制が取れていること、③ とくに秋川の村
立中学校や三宅高校からの支援について要
請がないことなどから、三宅島社協では、
秋川の学校敷地内での活動を終了すること
といたしました。お世話になった沢山の
方々への感謝の気持ちはとても言葉では言
い尽くせません。

今後は基本的に、就学児童・生徒につい
ては三宅島の各学校および教育委員会が、
未就学児については三宅島社協が支援の窓
口となります。三宅島社会福祉協議会では、
今後も児童福祉およびボランティア活動の
分野に位置付けて、三宅島の子供達への活
動を行って参りますので、よろしくお願
い申し上げます。(三宅島社会福祉協議会)

(3) 一時帰島をしてきました

三宅島への日帰り帰宅の第一陣として、
4月1、2日と一時帰島をしてきました。

久し振りの家には一年半前の真夏の避難
からつるしっぱなしの風鈴があり、風を受
け「カラ～ン、カラ～ン…」と響き、その
音はこの一年半の避難生活が無かったよう
な、島の一日が普通に始まったような、そ
んな感覚を抱かせてくれました。

しばらくそんな気持ちにひたってから、
ようやく作業にとりかかり、とはいっても
独り者の私には持ち帰るべき家財はほとん
どなく、家の状態を確認することが中心で、
村からの報告で雨漏りが心配でしたが、直
接部屋への被害はなく少し安心しました。

作業の合間に一息つくくと、うぐいすの鳴
き声や海、風の音が聞こえ、満開のつつじ
などの情景に再びひたっては、「もうここ
に帰れるかな」と思っていると、突然に小
規模な噴火が起こり、忘れていたあの恐怖
感がよみがえり、また防毒マスクが必要な
時があったりと、やはり島には帰れる状態
ではないことを改めて実感しました。

私は6年前に三宅島へ移り住み、海、山
などの自然と島の方々の優しさに恵まれ楽
しく暮らしていましたが、そんな生活も一
瞬にして失われ、先が見えない不安を持ち
続けることになりました。そのことは私だ
けではなくみなさんも同じことでしょう。

日帰り帰宅は定期的に行われるとのこと。
三宅村役場や関係者の苦勞に感謝しながら
も今後ともより良い一時帰島を実現してい
ただき、島民の不安を少しでもぬぐえれば
と思っています。(川崎市 坪田 金長 雄二)

「第4三宅島島民ふれあい集会」実行委員会の報告

4月4日(木)18:30より、「ふれあい集会」実行委員会が飯田橋セントラルプラザの
会議室で行われました。今回初めての参加の三宅村立小学校の先生方やこの4月に村
民課に着任された役場職員、また、毎回実行委員を引き受けてくださる実行委員の
方々など20名ほどの参加で、プログラムの内容や、会場の運営、楽しい雰囲気作り
に関する意見が交わされました。また、午後のプログラムの設立総会に向けての取
組みについて「三宅島島民連絡会運営委員」よりご報告がありました。

(以下決定事項)

1. 待ち合わせ場所として、5ヶ村を意識した目印を会場内に設置する
2. 校庭のプログラムには、神着木遣太鼓だけでなく伊ヶ谷獅子舞にも出演依頼する
3. ステージでの来賓あいさつが済む(11:10)まで、屋台からの配膳は待ってもらう
4. 久々に集まる子供達に十分に遊んでもらえるよう、また、親御さんたちに体育館
でのプログラムに安心して参加していただけるよう、「保育園」では乳幼児の託児
を、「村立小学校」をはじめとする子供スペースでは、先生方やボランティアさん
たちが子供たちに楽しんでもらえるような環境を作る
5. 「島民連絡会設立総会」を全島民の周知のもと出来るよう、設立趣旨説明に力を
入れていきたいので、実行委員へも周知の協力をお願いする

(第4三宅島島民ふれあい集会実行委員会事務局)